

千里文化センターフォーラム



まちを楽しむ!



千里大編集会議



フォーラム記録集



2019年3月3日(日) 14:00~16:00

会場 ▶ 豊中市千里文化センター「コラボ」多目的スペース

定員 ▶ 150人(当日会場で受付、先着順)

プログラム

■ トークセッション

『まちを楽しむ！
千里大編集会議』

ファシリテーター

上村 有里 さん 千里市民フォーラム
共同代表

語り手

若狭 健作 さん 尼崎南部再生研究室

大迫 力 さん 「月刊島民」
編集・発行人

小西 美由紀 さん
情報誌「ママトリエ」代表

千里に「地域情報誌」を
つくるなら、どんな感じ？！

千里につながる、仲間につながる
地域情報誌づくりとは？

さあ、楽しく愉快地に
千里をほじくり返そう！

“参加型 大編集会議”
の始まりはじまりい！

鼎談

まちを楽しむ！千里大編集会議

各地でコミュニティ誌の制作に携わる方々から、まちづくりへの想いや地域情報誌の可能性、楽しさや効果等をお聞きすることで、千里地域における賑わいのある「まちづくり」をめざす地域情報誌の制作に向けた機運を盛り上げます。

登壇者プロフィール



若狭 健作 (わかさけんさく)

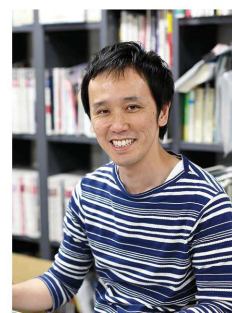
尼崎南部再生研究室

尼崎大気汚染公害訴訟の和解金を活用して生まれたNPO「尼崎南部再生研究室」の研究者として、尼崎運河クルージングの企画や幻の郷土野菜「いもの復活栽培」のほか、2001年の創刊からローカルマガジン「南部再生」の編集にかかわる。遊び心あふれる地元の編集部員たちと年3～4回の発行をなんとか続けながら現在58号を数える。株式会社地域環境計画研究所代表。1977年大阪市生まれ。

大迫 力 (おおさこちから)

「月刊島民」編集・発行人

1980年尼崎市生まれ。同志社大学文学部文化史学科卒業後、2003年に京阪神エルマガジン社『Meets Regional』編集部に入社。2006年より株式会社140B。大阪・中之島エリアのフリーマガジン『月刊島民』の編集に創刊時から携わり、2016年11月より編集・発行人を務める。また、ナカノシマ大学という講座の企画・運営や大阪をテーマとした書籍の編集なども行う。そのほかウェブ・印刷物を問わず各種広報物の企画・制作に幅広く関わっている。



小西 美由紀 (こにしみゆき)

情報誌「ママトリエ」代表

東京外国語大学ドイツ語学科卒業後、ミセス向けフリーペーパー『リビングふくやま』編集部入社。ライターを目指し、大阪へ。5年間の編集プロダクション勤務を経て、フリーランスのライターとして独立。結婚・出産後に自身が経験した“孤育て”問題を解消するため、2012年に子育て情報誌『ママトリエ』を創刊。翌年読者交流のためのスクールをスタート。2016年に発行エリアを拡大し、現在、北摂5市で25,000部発行。



ACCESS

- ◆ 北大阪急行千里中央駅 北改札より約80m
- ◆ モノレール千里中央駅より 約400m

※豊中市千里文化センターには駐車場がありません。
ご来館には公共交通機関をご利用いただくか、近隣駐車場をご利用ください。



豊中市千里文化センター「コラボ」

〒560-0082 豊中市新千里東町1-2-2



平成30年度 千里文化センターフォーラム 「まちを楽しむ！千里大編集会議」実施要項

1. 趣 旨

市民による「まちづくりへの新たな取組み」の萌芽を期成するため、各地でコミュニティ誌の作成に携わる方々にお集まりいただき、まちづくりへの想いや地域情報誌の可能性、楽しさや効果等をお聞きすることを通じて、誰もが住みやすい賑わいのあるまちづくりのための、「地域課題の解消と地域活力の増進」をめざす地域情報誌制作に向けた機運を醸成する機会とする。

2. 実施日

平成31年（2019年）3月3日（日） 14:00～16:00

3. 会 場

豊中市千里文化センター「コラボ」 多目的スペース

4. 主 催

- ・豊中市 市民協働部 千里地域連携センター
- ・吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議

5. 内 容

- ・開会あいさつ 長内 繁樹 豊中市長
- ・「まちを楽しむ！千里大編集会議」

（ファシリテーター） 千里市民フォーラム 共同代表 上村 有里 さん

（語り手） 尼崎南部再生研究室 若狭 健作 さん
月刊「島民」編集・発行人 大迫 カ さん
「ママトリエ」代表 小西 美由紀 さん

- * 自分の作っている情報誌のこと、雑誌作りの楽しさ、効果を語り合う
- * 会場と登壇者双方向の「参加型 編集会議」

6. 定 員 150人

7. 申込み 当日会場で受付、先着順（保育は2月25日（月）まで、要申込）

※ 当日参加者数 75人

<p>司会</p>	<p>長らくお待たせいたしました。</p> <p>千里文化センターフォーラムへのご参加、誠にありがとうございます。ただいまから「まちを楽しむ！千里大編集会議」を開催いたします。</p> <p>この催しは、各地で地域情報誌の制作に携わっている皆様にお集まりいただき、これからの千里のまちづくりに繋げる地域情報誌づくりのあり方や可能性について考えることを通して、賑わいのある誰もが住みやすいまちにしていく機運を高めようと企画いたしました。</p> <p>私は、本日の司会を担当させていただきます、吹田市と豊中市が共同で設置しております吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議の堺と申します。どうぞよろしく願います。</p> <p>フォーラムに入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>A4サイズ両面色刷りの、このフォーラムのチラシ、裏面には本日の登壇者のプロフィールがありますので、ご参照ください。</p> <p>A4サイズの「アンケート用紙」は、後ほどご記入をお願いいたします。</p> <p>本日の登壇者の作成されている「南部再生」、「月刊島民」、「ママトリエ」のバックナンバーです。数量に限りがありますので、発行号数の違いはご容赦ください。</p> <p>その他、本日は資料・複数のチラシ類がありますが、時間の都合上ここでの確認は割愛させていただきますが、後ほどご覧ください。</p> <p>最後に今一度のお願いでございます。携帯電話をお持ちの方は、マナーモードにするか、又は電源をお切りくださいますようお願いいたします。</p> <p>なお、記録冊子の作成のため、赤いベストを着た職員スタッフが会場内で記録写真を取りますのでご承知おきください。</p> <p>それでは、千里文化センターフォーラムの開催に際しまして、主催者を代表いたしまして、長内繁樹 豊中市長よりご挨拶を申し上げます。(拍手)</p>
<p>長内繁樹 豊中市長</p>	<p>みなさまこんにちは。豊中市長の長内です。</p> <p>本日は「千里大編集会議」にお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>みなさまご存じのように、千里は「まちびらき」からそれほど時間が経っていません。ということは、みなさまが作られた吹田と豊中にまたがる新しいコミュニティです。</p> <p>千里に関する情報がいっぱい溢れていますが、お聞きするところによりますと、千里に関する情報誌はないらしいです。</p> <p>みなさまがそれぞれ編集長になっていただき、千里の魅力、賑わいを発信するにはどのようなかたちで編集されるか。本日はお知恵を拝借できたらと思います。</p> <p>千里は、千里にお住まいの市民のみなさまの、おひとりおひとりの力で作られたコミュニティです。</p> <p>これからもその変化は、市民のみなさまで作られるものだと考えています。</p> <p>今年3月1日、千里中央に「SENritoよみうり」がオープンしました。</p>

	<p>千里セルシーは今、官と民の両方で活性化に向け、動き出しています。その変化は、まもなくみなさまに実感いただけるかと思います。</p> <p>新しい千里の魅力を、本日の「大編集会議」のなかで、いっしょに考えていただけたらと思います。</p> <p>本日はありがとうございます。(大拍手)</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではフォーラムを始めさせていただきます。</p> <p>テーマは「まちを楽しむ！大編集会議」です。それでは登壇者の皆様に、ご登壇いただきます。みなさま拍手でお迎えください。(大拍手)</p> <p>◀ 登壇者 ご登壇 ▶ (大拍手)</p>
上村さん	<p>みなさまこんにちは。</p> <p>本日は「大編集会議」へ、ようこそお越しくださいました。</p> <p>さてさて、ここで何が起こるか私自身もワクワクしています。</p> <p>今日は千里以外の方もたくさんお越しいただいているんじゃないかと思います。千里のことをよく知っている方はもちろん、千里ってよくわからないけど今日のタイトルに興味を持って来たんですという方も大歓迎です。</p> <p>今日はみなさま参加型で、楽しんで帰っていただきたいと思っています。</p> <p>申し遅れましたが、進行を務めさせていただく 千里市民フォーラム共同代表の上村です。よろしくお願いします。</p> <p>千里市民フォーラムという団体は、千里に関わる活動をする方、千里に興味のある方、千里のまちを良くしていこうと面白がっているメンバーがたくさん集まっている団体です。</p> <p>今日は千里市民フォーラム共同代表という立場だけではなく、ローカルメディア、情報誌について興味がある市民の一人として、また千里のコラボで長く活動してきた一人としても、千里中央を面白くしていきたいという気持ちがあって参加しています。</p> <p>なぜ「大編集会議」の企画に至ったかと申しますと、先ほど市長からもお話がありました。千里にはいろんな取り組みがありメディアもあるけれど、活字のメディアになっているものはないんです。</p> <p>過去にあっても、一瞬出では消え 出では消えというかたちで、今現在、千里の活字メディアはこれ！というものが思い浮かばない。</p> <p>千里タイムズがありますが、もう少しカジュアルな活字メディアはありません。</p> <p>じゃあ せっかくなので、ここにいるみなさまと作ってみよう。</p> <p>作るんだったらどんなことを考えようか。そんな話し合いができればいいなと、今日の企画をさせていただきました。</p> <p>みなさまのお手元に、今日登壇されるゲストの方達が作られた情報誌があると</p>

	<p>思いますが、関西で面白い素敵な情報誌を作っている一押しのお三方に来ていただいております。</p> <p>それぞれの方から、自己紹介と情報誌の魅力をお伝えいただきます。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>みなさまこんにちは。若狭と申します。私は尼崎で雑誌を作っています。みなさんはどちらからお越しなんでしょうか。</p> <p>千里の方、千里を除く豊中市の方、吹田市、箕面市、尼崎市。身内(笑)編集メンバーです。池田市、摂津市、それ以外・・・、多くの方がいろんなところからおいでいただいています。</p> <p>私たちが作っている「南部再生」は2001年に創刊して17年出し続けています。年4回季刊発行ですが、ほぼ季刊。なぜほぼ季刊かというとみんな仕事の合間を縫ってやっているのです、なかなか・・・。甘えているだけなんですけどね。</p> <p>ボランティアで作ってこれまでに58号まで重ねてきました。</p> <div data-bbox="451 835 1123 1335" data-label="Image"> </div> <p>スライドをご覧ください。まちを歩いていると面白い看板に出会うことがあります。これは過激な張り紙。「キャベツを入れるな！」どこに張っているか分かりますか。実は、阪神尼崎駅前の公衆トイレの大便器の前に貼られていました。(笑)</p> <p>尼崎には、阪神、JRなど各路線がありますが、南のほうは刺激的なことが多いんです。こんなところから、お分かりいただけだと思います。</p> <p>こんな看板を紹介するだけでなく、もっと違う尼崎の魅力を伝えようということで作っています。</p> <p>地形的には、大阪と西宮に挟まれていて、「尼崎あるある」は、兵庫県なのに「市外局番が大阪の06」。尼崎なのに、車は「神戸ナンバー」とかね。</p> <p>大阪なのか兵庫なのか、よくわからない場所。</p> <p>よく聞かれるのは「尼崎って大阪なんですか？神戸なんですか？」の問いに、尼崎の人は「尼崎！あまは あまや」と。(大爆笑)</p> <p>世界各地を探しても愛称で呼ぶまちは3箇所しかありません。</p> <p>ロサンゼルス の ロス。リオデジャネイロ の リオ。そして尼崎の あま。(爆笑)</p>

それくらい強烈な個性を発揮しているまちが尼崎でございます。

尼崎といえば、公害のまちと言われますね。

これは工業都市として栄えた 1960 年 当時の写真。

同じ時代にこんな絵葉書が作られています。発電所の煙をその当時は繁栄の象徴だと自慢する風景だったんです。



千里もそうですが 40 年前の風景と、今の風景が同じでも感じ方が違うんだな、ということがあります。

地域情報誌はまちのいろんな表情をすくいだしたり、違う角度から見たりとか、「月の裏側を見に行くようなことをしたい」、そんな思いで冊子を作っています。

ボランティアで作っていますが、もともとの発端は尼崎の大気汚染公害訴訟の和解金を使ってできた団体で「尼崎南部再生研究室」といいます。

この団体で作る雑誌がベースとなっています。

裁判の途中、公害患者の方々が尼崎のまちをこんなふうにしたいと夢のプランを描きました。

尼崎に張り巡らせてある運河を使ってベネチアのような住宅街にしたい、なかなかの構想なんですけれど、それをもとに運河をクルージングしたりしました。

かつて作られていた「尼いも」というサツマイモを復活させたいということから、復活栽培に取り組んだりもしました。

このように雑誌だけでなく、まちおこし、地域おこしの活動にもいっしょに取り組んでいます。

この情報誌は、「尼崎南部地域のためのフリーマガジン」です。



尼崎の方って尼崎のことを自虐的に言われるんです。「どうせ、あまやし」って。私は大阪出身ですが、大学時代に尼崎の研究に関わることになって、尼崎に面白いことがいっぱいあるのに、なんで町の方は自慢しないんだろうと考えました。で、私たちが面白いところを調べて雑誌を出してまして、これは尼崎市内にしか配っていません。

外の人に自慢をするのではなくて、地元の方が自分の町 捨てたもんじゃないなと思ってもらえたらいいな、と思って作っています。これが編集会議の様子です。



多彩な顔ぶれで小学生から後期高齢者の方までおられます。小学生も編集会議に参加していますが、その彼も今日は来ています。尼崎に関わる学生や、町のおばちゃん、建築家、公務員、神主、学校の先生、学生、司法書士、ライター、編集者、絵描き、建築家などが集まって作っており、誰も原稿料はもらってないという変わった雑誌です。ほぼ季刊で1万部、発行しています。



冊子のコーナーを、いくつか紹介します。

「 尼崎ディスカバリー 」

廃墟や工場の写真を撮る小林哲朗さんという写真家に、尼崎のなかで失われつつある景色を写真で撮っていただいています。

これは、廃校になる高校を、ドローンを飛ばして撮っていただきました。

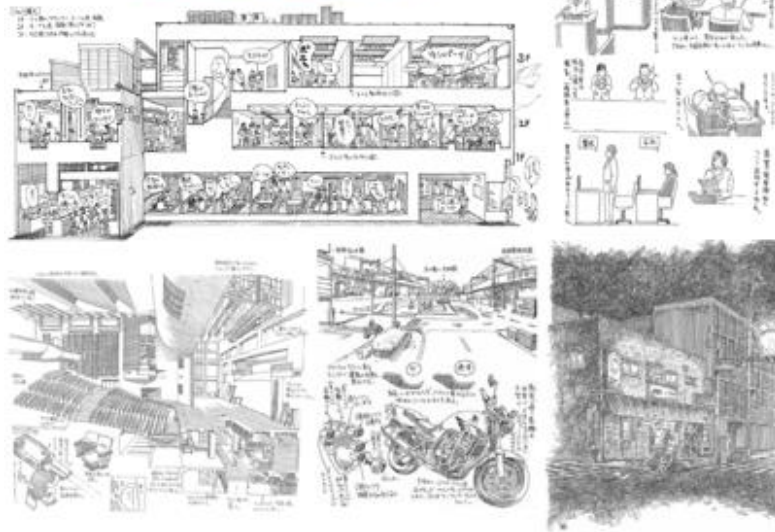
まちの風景はどんどん失われていきますが、メディアの大切さは 今ある風景を冷凍保存できることだと思っています。30 年後には、郷土資料としてすごく貴重なものになるとと思っています。



「 南部百景 」

写真を撮らせてもらえなくても、絵だったらいいよと言われる場所が結構あります。例えば、議会の傍聴席。傍聴席から居眠りしている議員を、明らかに誰かわかるタッチで描いてしまったりとか。(笑) そんなことをしています。

南部百景



「 3 時の働くあなた 」

「3 時のあなた」を覚えておられますか。

パロディですが、3 時のあなたは「深夜 3 時のあなた」です。

まちは、私たちが眠っている間も働く人がいて、成り立っているんです。

深夜 3 時に働く人たち取材しており、これまでゴミ焼却センター、消防の指令センター、毎日新聞阪神支局などを取り上げました。

新聞では深夜 3 時は特オチ(特ダネを拾い損ねる)していないか確認する時間。全紙の刷りたてが出る時間。それを見て「よかった落としていなかった」と安堵する記者の姿。



大迫さん	左上のおっちゃんの写真、パンチが効いてますね！																																												
若狭さん	<p>銭湯は、あの時間にしか掃除できないということで、パンツ一丁で 80 いくつかの掃除するおじちゃんもいてはりました。</p> <p>しかし、このコーナーの取材に行くと喜ばれます。「よく来てくれた！」と歓迎されます。(爆笑) 特集はいろんなタイトルでやっています、いくつか紹介します。</p> <p>「尼崎の歌 ザ・ベストテン」</p> <p>これもパロディなんです、尼崎の歌といえばなんだろうと、読者アンケートを取りました。</p> <div data-bbox="432 707 1398 2033" style="background-color: #333; color: #fff; padding: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 30%;">尼崎のベストテン</th> <th style="width: 20%;">読者投票ポイント</th> <th style="width: 40%;">聞かせどころ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 1</td> <td>赤とんぼ ゴミ収集車</td> <td>2 0 1 0</td> <td>ゴミ収集車が毎朝奏でる音楽は「夕焼けこやけ」。まさに、まちのヒーロー・ローション</td> </tr> <tr> <td>● 2</td> <td>あましん僕らの貯金箱 尼崎信用金庫CM</td> <td>1 7 4 0</td> <td>誰もが口ずさめるあのフレーズ。「あましん♪ぼくらのちょきんばこお」と桂小枝が脱力唱。</td> </tr> <tr> <td>● 3</td> <td>尼崎の夜空を見上げて 横原敬之</td> <td>1 6 5 0</td> <td>マッキーが幼少時代に通った尼崎への愛情をこめて作った1曲。下町の情感がただよ。</td> </tr> <tr> <td>● 4</td> <td>ああ尼崎市民家族 デュークエイセス</td> <td>1 2 3 0</td> <td>キダタロー作曲、歌はデュークエイセス。終点前の市バス車内でインスト版が流れる。</td> </tr> <tr> <td>● 5</td> <td>ド根性節 都はるみ</td> <td>1 2 0 0</td> <td>1966年リリース。都はるみが力強いこぶしをきかせて歌い上げるイケイケどんだんな1曲。</td> </tr> <tr> <td>● 6</td> <td>悲しい色やね 上田正樹</td> <td>1 1 7 0</td> <td>「にじむまちの灯」は尼崎の港がモデルとか。尼崎ベイブルース♪と熱唱したい。</td> </tr> <tr> <td>● 7</td> <td>尼崎の魚 くるり</td> <td>0 6 0 0</td> <td>彼らのライブの定番曲。尼崎で出会った釣り人がきっかけになってできた曲とか。</td> </tr> <tr> <td>● 8</td> <td>尼崎市歌 土井晩翠作詞</td> <td>0 5 4 0</td> <td>「荒城の月」で有名な詩人が昭和15年に作った、尼崎の活気を今に伝える伝える名曲。</td> </tr> <tr> <td>● 9</td> <td>阪神電車の歌 憂歌団</td> <td>0 4 2 0</td> <td>ぼくのみち～の、はんし～ん、で・ん・しゃ♪あれは尼崎のことを歌っているはず。</td> </tr> <tr> <td>● 10</td> <td>田能遺跡音頭 三田明</td> <td>0 3 9 0</td> <td>1970年に尼崎市が企画した音頭。一部地域では盆踊りの定番曲としても知られる。</td> </tr> </tbody> </table> </div>		尼崎のベストテン	読者投票ポイント	聞かせどころ	● 1	赤とんぼ ゴミ収集車	2 0 1 0	ゴミ収集車が毎朝奏でる音楽は「夕焼けこやけ」。まさに、まちのヒーロー・ローション	● 2	あましん僕らの貯金箱 尼崎信用金庫CM	1 7 4 0	誰もが口ずさめるあのフレーズ。「あましん♪ぼくらのちょきんばこお」と桂小枝が脱力唱。	● 3	尼崎の夜空を見上げて 横原敬之	1 6 5 0	マッキーが幼少時代に通った尼崎への愛情をこめて作った1曲。下町の情感がただよ。	● 4	ああ尼崎市民家族 デュークエイセス	1 2 3 0	キダタロー作曲、歌はデュークエイセス。終点前の市バス車内でインスト版が流れる。	● 5	ド根性節 都はるみ	1 2 0 0	1966年リリース。都はるみが力強いこぶしをきかせて歌い上げるイケイケどんだんな1曲。	● 6	悲しい色やね 上田正樹	1 1 7 0	「にじむまちの灯」は尼崎の港がモデルとか。尼崎ベイブルース♪と熱唱したい。	● 7	尼崎の魚 くるり	0 6 0 0	彼らのライブの定番曲。尼崎で出会った釣り人がきっかけになってできた曲とか。	● 8	尼崎市歌 土井晩翠作詞	0 5 4 0	「荒城の月」で有名な詩人が昭和15年に作った、尼崎の活気を今に伝える伝える名曲。	● 9	阪神電車の歌 憂歌団	0 4 2 0	ぼくのみち～の、はんし～ん、で・ん・しゃ♪あれは尼崎のことを歌っているはず。	● 10	田能遺跡音頭 三田明	0 3 9 0	1970年に尼崎市が企画した音頭。一部地域では盆踊りの定番曲としても知られる。
	尼崎のベストテン	読者投票ポイント	聞かせどころ																																										
● 1	赤とんぼ ゴミ収集車	2 0 1 0	ゴミ収集車が毎朝奏でる音楽は「夕焼けこやけ」。まさに、まちのヒーロー・ローション																																										
● 2	あましん僕らの貯金箱 尼崎信用金庫CM	1 7 4 0	誰もが口ずさめるあのフレーズ。「あましん♪ぼくらのちょきんばこお」と桂小枝が脱力唱。																																										
● 3	尼崎の夜空を見上げて 横原敬之	1 6 5 0	マッキーが幼少時代に通った尼崎への愛情をこめて作った1曲。下町の情感がただよ。																																										
● 4	ああ尼崎市民家族 デュークエイセス	1 2 3 0	キダタロー作曲、歌はデュークエイセス。終点前の市バス車内でインスト版が流れる。																																										
● 5	ド根性節 都はるみ	1 2 0 0	1966年リリース。都はるみが力強いこぶしをきかせて歌い上げるイケイケどんだんな1曲。																																										
● 6	悲しい色やね 上田正樹	1 1 7 0	「にじむまちの灯」は尼崎の港がモデルとか。尼崎ベイブルース♪と熱唱したい。																																										
● 7	尼崎の魚 くるり	0 6 0 0	彼らのライブの定番曲。尼崎で出会った釣り人がきっかけになってできた曲とか。																																										
● 8	尼崎市歌 土井晩翠作詞	0 5 4 0	「荒城の月」で有名な詩人が昭和15年に作った、尼崎の活気を今に伝える伝える名曲。																																										
● 9	阪神電車の歌 憂歌団	0 4 2 0	ぼくのみち～の、はんし～ん、で・ん・しゃ♪あれは尼崎のことを歌っているはず。																																										
● 10	田能遺跡音頭 三田明	0 3 9 0	1970年に尼崎市が企画した音頭。一部地域では盆踊りの定番曲としても知られる。																																										

10位「田能遺跡音頭」三田明。

知らんわ、みたいな。(爆笑)

2位「あましん 僕らの貯金箱」 尼崎信用金庫の歌です。

歌えますか、みなさん。さんハイ!「尼信 僕らの貯金箱」(爆笑)

1位「赤とんぼ」ゴミ収集車

尼崎では毎朝、夕焼け小焼けの歌をかけながら収集車が回ってるんです。これがまちのヘビーローテーションだなど。

そんなことを誰に頼まれたわけでもなく、こんなベストテンを発表しました。

「アマのウチナー」

尼崎は、沖縄出身者が多いんです。

労働力を求めて金の卵と呼ばれる方が一杯いらっしやったんですが、その3世だったり、尼崎に残っている沖縄文化を、ちょっと真面目に紹介する特集でした。



「尼の神さま仏さま」

神社とお寺の特集。

取材のなかで関学出身の神主さんに会いました。僕の先輩です。

彼は、中高大と関学。小学校は神学校の仁川学園だったので16年間、賛美歌を歌い続けた神主です。(大爆笑)



この方の友達である住職も加わった話を聞いていると面白いんです。
 僕の素朴な疑問に答えてくれる。僕だけ聞いておくのはもったいないと思い、雑誌から派生するかたちで、「8時だヨ！神仏集合」というラジオ番組を作りました。
 (爆笑)

タイトルに全国からお叱りの電話があったので、2回目からは「8時だヨ！神さま
 仏さま」になりました。

何のパロディかわからなくなったのですが、この番組を9年間続けていました。

2人だと喧嘩になるので、牧師さんも入れて3人で、ご機嫌な宗教対談をする。

みなさん笑っていますが、僕たちは世界平和のためにやってるんです！

ほんまですよ！(笑)

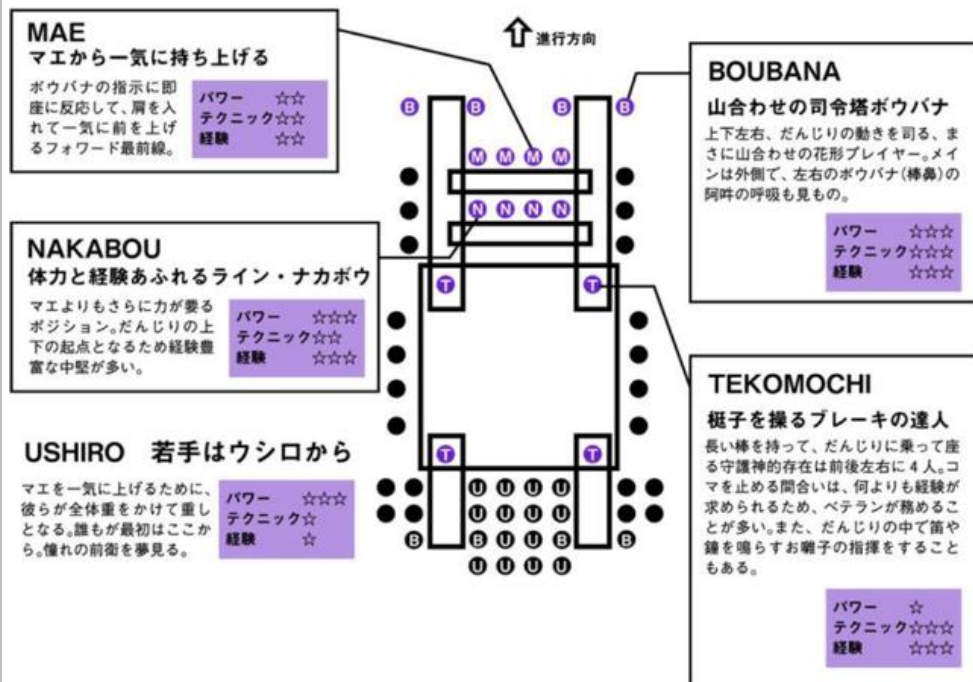
イタリアの新聞でも紹介されました。

こんなに平和なラジオ番組が日本の尼崎にある、ということが書いてあると思います。
 す。本からラジオを作ったということです。

「だんじり男子」

だんじり祭り。だんじりをぶつけ合う伝統的な祭りって、見ていてもさっぱりわからないじゃないですか。それをスポーツに見立てて、棒鼻というポジションはパワー・テクニク・経験が共にいるということで、花形だとか 勝手に解説。

勝手に解説することがすごく大切です。



「ピバ! 銭湯」

銭湯の特集。

まちには銭湯がなぜ多いのか。銭湯の経営の大変さを調べたりしました。



「 そうだ 選挙、行こう 」

市議選が始まる直前に、今からでも間に合う「市議選必勝マニュアル」という煽り気味の特集を組みました。

議会周辺取材していると「若狭そろそろ出るな」と囁かれながら。(大爆笑)



意外と知らない選挙のルール
No MORE 選挙違反

今年はこれで勝つ!
南部再生おすすめ
必勝スローガン

「 尼とパン 」

やわらかいテーマでは、パンの特集をしました。

尼崎はパン屋が多いんですよ。「AP通信」は「尼崎パン通信」の略です。(爆笑)
調査をしたところ、パン屋の件数を市の面積で割ると、1kmあたりのパン屋の数は神戸や西宮よりダントツに多い。

でも、数字のトリックで、尼崎市はほぼ全域が市街化されているけど、神戸や西宮は半分くらい山じゃないですか。

あらゆるものは面積で割ると、ほぼ尼崎は全国屈指の密集地帯になるんです。
“困ったら面積で割れ”が、われわれ「南部再生」の鉄則です。(爆笑)



「 99 」

2年前、尼崎市制100周年でした。100周年はめでたいじゃないですか。市役所が99年から、来年は100周年だと煽り出した。

私たちはひねくれているから「いや99周年だって祝ってほしいはず」と、「99」という特集をしました。


「99」の特集はどんな特集なのか。ほとんど大喜利です。

9歳と9歳の双子を探したら、奇跡的にも同じ学校で2組いてたんですよ！奇跡ですよ。右上は救急救命センター。

右下は、何たる奇跡「きゅうりのキューちゃん」の大阪支社が尼崎市にあったんです。東海漬物に「99」特集の取材依頼を出したところ、ちゃんに対応していただき、お土産にきゅうりのキューちゃんをいただきました。

取材が終わって東海漬物を出たら、交差点の名前が「久々知」（くくち）。奇跡ですよ！



	<p>このようにまちの魅力を、面白おかしく紹介する雑誌です。 真面目なことを、ちょっと面白くすることがポイント。</p> <p>最新号の「雨ニモマケズ」は防災についての特集ですが、昨年災害が多かったんで、台風の被害状況などを紹介しました。</p> <p>以上です。(大拍手)</p> 
<p>上村さん</p>	<p>ありがとうございました。ネーミングがいいですね。 昭和な感じで。(笑) 続いて、大迫さんお願いします。</p>
<p>大迫さん</p>	<p>パワーポイントを使いますが、みなさん見えやすいところに来てくださいね。 気楽に聞いてください。</p> <p>みなさんのお手元にある「月刊島民」という雑誌を編集しております。 私も尼崎で生まれ育ちました。先ほどの「南部再生」の編集にも、少し関わっています。本業は、大阪市にある出版社「140B」に勤めています。 そこで「月刊島民」の編集を創刊時から行っております。 2016年11月から編集・発行人となりました。</p> <p>2008年、京阪電車に中之島線ができて、それをきっかけに中之島エリアの注目度を上げたい。中之島に愛着を持ってくれる人を増やしたいと創刊しました。 毎月1日に発行。現在は32,000部です。 京阪電車プレミアムカー(特急)に乗ると、アテンダントの女性が配ってくれます。 ANAの「翼の王国」のような感じですね。(爆笑)</p> <p>それ以外は、京阪電車の駅や中之島周辺の本屋さん、公共施設など200カ所以上で配布しています。</p> <p>今日の話につながりますが、何のために発行するのかという“目的”がローカルメディアに関わらず、メディア作りにとっては非常に重要です。 「月刊島民」の場合は、京阪電車の新線開業にあたり、中之島に愛着を持つ人を増やしたいということが目的です。</p> <p>メディアとは、日本語で言うと媒体ですね。すなわち仲介するもの。</p>

伝えたいことを発信する媒体。つまり、メディアを出すこと自体は、目的ではない。
“言いたいこと” “伝えたいこと” “やりたいこと” がある。

そのメッセージを媒体にして、発信することがメディアです。

この目的、役割が非常に重要になってきます。

新しい雑誌を考えるときに、それを作ることだけではなくて、「何をしたいか」、「それによって何を実現したいのか」、そこから考え始めることが大事だと思います。

「月刊島民」は、目的を意識して作られたものです。

「目的」があって「かたち」がある、ということです。

「月刊島民」というタイトルもそうです。中之島に愛着を持ってほしい。

表紙にも書いています。「橋を渡る人、みな島民です」。

中之島を行き交う人たちは、働く、学ぶ、いろんなつながりがあると思いますが、中之島に何か関わりのある人はみんな島民であると、そういう意味を込めたタイトルにしています。

愛着を持ってくれる人には、定期的なサイクルを持ったかたちで発行するほうが、親しみやすいですね。だから毎月 1 日に発行しようということになりました。

サイズは変形 B5 版。女性のカバンに入りやすい。コンパクトで持ち運びやすい。iPad とほぼ同じサイズです。アップルよりも、注目する先見の明があったと思います。(笑)



そして、メディアは“スタンス”。“立ち位置”が重要です。

中之島には大企業や公的機関が多いので、メディアがたくさんありますが真面目なものが多い。あるいはクーポン付きのグルメ系。

「月刊島民」は、それらとは違う。

たんなる情報紙でも、詳しいだけの専門誌でもない。そこを目指して 10 年以上。128 号までできました。

メディアのかたち、アウトプットのかたちは、“目的” “やりたいこと”によって変わっていくということを、まずはお伝えしたいと思います。

次に、「月刊島民」の特徴的なところは「ナカノシマ大学」をやっていること。



「月刊島民」をご覧くださいますと、告知ページが載っていますが、月に1回、私たちが主催する講座を開催しています。

講演会、トークショー、落語界、建築物ツアーなどを行っているわけですが、こういうものの告知、広報媒体としても、メディアが機能することが多いです。

ウェブサイトを見ていただくと、現在申し込める内容が一覧になっています。

校章もちゃんと作りました。上部に中之島の橋をデザインしています。



こういったかたちで大学風にしなから、ローカルメディアの印刷媒体とウェブもつなぎながら、リアルの場で講演会などのイベントを開催しています。

中之島周辺にある貸会場を借りてトークショーをしたり、プラネタリウムやミュー

ジウムをめぐるツアーなどを行っています。

これはプラネタリウムですがリクライニングするシートでドームにいろんなものを写しながら講座をしたりしました。

アクティビティ系では、落語会、利き酒、ビルの屋上で盆踊り練習なども行いました。



① トークショー



講演会、対談、シンポジウムなど

② アクティビティ



落語会、利き酒、盆踊りなど

③ ツアー・見学会



建築めぐり、街歩き、クルージング

毎回のテーマは、ほぼ私が考えていますので、その時々で企画しています。(爆笑)

盆踊りに、ハマっていた時期には、編集部のあったビルの屋上で盆踊りの練習会をやりました。



八尾市は、河内音頭の普及に熱心なので、音頭取りの方や踊りの先生を無料で派遣してくれるんですよ。マイクなどの機材やお弁当を用意すれば来てくださいますので、みなさん是非覚えておいてくださいね。そうして、高層ビルを背景に、会社帰りの人が盆踊りの練習をするというシュールな光景が生まれました。

隣のビルにはサントリーのビアガーデンがありまして、そこから不思議そうに眺めている人がいました。(爆笑)

ひょっとしたら、踊りながらUFOでも呼んでいるんじゃないかと思われていたのかもしれない。(爆笑)

あるいは、中之島にある近代建築見学ツアーを行ったり、大阪府立中之島図書館を閉館後に訪れたり、楽器工房が密集しているエリアをめぐるツアーをやったこともありました。

また、中之島は島ですから、川に囲まれているわけです。そこでクルージングをしたり、船の内部、エンジンルームを見たりといった場所の特徴を生かした企画もしています。

紙面で場所の紹介を詳しく書いても、空気感はなかなか伝えられませんが、その場所に行く機会を提供できることが、イベントの利点だと思います。

紙面作りには 1~2 ヶ月かかりますが、イベントの場合はウェブにアップすれば、企画から実施まで短い期間で済むというメリットもあります。

また、情報誌にはお金が必要なもので、イベントでは 1500~2500 円の幅で参加費を取って、収入源のひとつにもなっています。

さらにメディアとしての存在感が増すとも言えるでしょう。

取材などでたくさんのネットワークを築くことができますから、そうしたつながりを活かして、そこに行ってもらうことでダイレクトに発信してローカルメディアとしての存在感を大きくしていくことが出来る。

さらに、ナカノシマ大学を開催する中で、コンテンツの蓄積ができますから、それを活用して書籍の出版もしています。



図に示していますが、「月刊島民」~ナカノシマ大学~たまったネタを書籍化~、さらにそれをネタにして、「月刊島民」に掲載するといったサイクルにしています。

マネタイズの観点からも有効で、制作費・広告費を「月刊島民」の紙の印刷物に投入して、ナカノシマ大学では受講料をもらう。そして書籍を売って利益を得て「月刊島民」の発行に生かす。といったことまで考えるようにしています。



このようにして「月刊島民」と「ナカノシマ大学」を連動させながら、ローカルメディアの存在感を上げることで、媒体価値のアップを図っているわけです。(大拍手)

上村さん	<p>ありがとうございます。「月刊島民」さんの編集のお話でした。 では、小西さんからお願いします。</p>
小西さん	<p>みなさん、こんにちは。NPO 法人ママトリエの代表理事をしている小西美由紀と申します。</p> <p>若狭さんと大迫さんの後で大変話しぶりです。(大爆笑) 関西の人って、トークがすごいなと思っています。(爆笑)</p> <p>私は、普通の主婦でありまして、今小学5年生と2年生の子どもがいます。昨日がママトリエ春号の入稿だったのですが、下の子が小学生になってからは入稿目前の恒例で、ふたりの子どもは新幹線に乗せて実家送りにしています。(笑) 「トゥルルル」という発車ベルが鳴るまで笑っているんですが、ドアが閉まると泣きだした息子に乗せて、新幹線が走っていくということを何年も繰り返してきました。</p> <p>ママトリエを立ち上げたきっかけは、私は編集ライターの仕事で大学卒業後からしてしまて出産後も続けていたのですが、どうしてもインタビューの仕事は夜が多かったんです。</p> <p>駅前の託児所に子どもを預けようと準備して当日を迎えるんですが、母親が気合入りすぎると、子どもが敏感になって必ず熱を出すんです。 しょうがなく広島の実家に送って、その足で大阪に戻ってインタビューをして、また広島に戻るとい生活をししばらく続けていました。</p> <p>子どもが寝ている間に仕事をするんですが、当時はデータ送信できない時代で編集部とFAXでやりとりをするので、FAXが作動する音でやっと寝かした子どもが泣き始めたりしていました。これではライターを続けるのは厳しいかなと思い専業主婦になりました。</p> <p>2人目が生まれて今日が何曜日かわからないくらいの「密室育児」に陥ってしましまして、元々ママ友を作るのも苦手でこの先どうやって生きていこうという状態だったんですね。</p> <p>新聞やニュースを見ているとNHKの有名キャスターが、産後うつで自殺されたりして社会問題になっているんだと感じました。</p> <p>調べていると虐待の通報件数は年々上がっていますが、実際に虐待も多いのですが、子どもの泣き声を虐待だと思って通報されるケースも多いんですね。 なんて子育てしにくい状況なんだろうと思っていました。</p> <p>当時は、大阪市内のマンションに住んでいたのでも、子どもを泣かさないように寝かさ</p>



なきやと、孤独な育児をしている時期もありました。

そこから箕面市内へ引っ越し、子どもが幼稚園に通い始めてようやくママ友ができましたが、みんな同じような思いを抱えて暮らしていたと聞きました。

幼稚園に入ると楽になるんですが、それまでの数年間を楽しく過ごせるようなことを、持っていたライタースキルで何かできないかなと思っていました。

その思いだけで、みのお市民活動センターに行って「子育て情報誌を出したい」と相談したところ、本当にあたたかく迎えてくださいました。

箕面市には市民活動の立ち上げ時に 10 万円の助成金があるので、それを元手に発行してはどうですかとアドバイスを受け、初めて事業計画書を書きました。

幼稚園には素敵なママが一杯いました。私にないものを持っている、営業や写真が得意なママ、保育士免許を持っているママと箕面市内でママを集めてイベントをしているママがいらっしまったので、自分にならぬスキルを持ったママ 4 人を集めて、こんなことをしたいと「ママトリエ」の構想を話すと、是非一緒にやりたいと言ってくれました。

7 年目の今も、彼女たちは理事としてがんばってくれています。

こうやって、「ママトリエ」が誕生しました。

とりあえず助成金の 10 万円で、印刷費をまかなえたのですが、地域に密着した情報誌にしたいので、まずは箕面市内に 5000 部発行を目標にして、1 歳の息子を連れて営業に回りました。

子育てしにくい状況を社会に広く知ってほしかったし、子育てに対する理解を周りの方に持っていただきたい。その思いを伝えていくと、まだかたちが何もぬい情報誌に 10 万円の広告を出して下さったお店が何軒かありました。

そして、2012 年 9 月に「ママトリエ」を創刊しました。

季刊で年 4 回発行で、営業、取材、撮影、デザインのすべてをママたちがこなしています。配布は 6 年目で、北摂エリア 5 市で 25000 部の規模になりました。

今は、箕面市内、市外への配布も、全部ママたちが行なっています。

はじめは有償ボランティアとして 1 件の記事で数千円でしたが、今は NPO 法人化してママたちの雇用も進めております。



「ママトリエ」の配布はママたちがするんですが、ママたちがいつも行く場所に置くということを大事にしています。

引きこもり育児をしているママも必ず買い物には行きますし、子どもが病気になったら病院にも行きますし、公的施設へも何かしらの手続きで行くので、そういったところはチェックするようにしています。

制作メンバーは別にして、そういった配布メンバーは 50 人ほどです。その 50 人ほどが、段ボール 30 箱以上でどっさり届く 25000 部を手分けして、数日以内に配布しています。

先ほど紙面のサイズの話がありましたが、「ママトリエ」は大きめの A4 です。

女性のバッグは小さいとおっしゃっておられましたが、ママのバッグは大きいので、サイズにはこだわっています。

公共施設に配架したときに小さいサイズだとラックの下に隠れてしまうんです。だから必ず「ママトリエ」のタイトルが見えるようにしています。

それほどの印刷費をかけて良いものに仕上げなくても、という声もあったし、みのお市民活動センターの印刷機を使えば安く仕上げられるんですが、やっぱりママは可愛いものに敏感なので表紙にもこだわってやっています。

2 年前に法人化して、ママも入ってくださって今は編集部に 3 人いますが、みんなプロではありません。

ちょっとだけ文章を書いたことがあるとか、デザイン学校を出たけれどデザインしたことがないとか、そういうママたちのスキルの集まりなのでプロのようにはうまくいきません。

中にはデザインや記事を書けない人もいますが、そういった場合は手書きでもいいということで、やりたいことを手書きして、可愛いイラストを描いてスキャンしてページにしてもいいくらいの気持ちで始めましたが、びっくりしたことに 1~2 回作っただけでママたちどんどんスキルアップしました。

デザインしたことのなかったママは、お子さんが大きくなってデザイン事務所で、今バリバリとデザイナーとして活躍しています。

スキルアップの途中でいいので、ママたちが作るということをいちばん大事にしています。

ママたちの雇用が始まって、今は手探りで作っている状態です。

表紙撮影から帰ってきたらピントが合っていなかったり、結構致命的な部分もありますが、それも「ママトリエ」の良さで、クライアントは創刊時からほとんど変わっていません。

ママたちの行くスポット、生活利便施設に置いているので媒体の反響はとてもあります。大手からこちらに乗り換えてくださった方もいらっしゃいます。

フリーペーパーの編集部にはいた頃は、広告はクーポン付きなど営業のための反響を求めるものだと思っていましたが、「ママトリエ」の広告スタイルはそれとは違います。

いつも出してくださる整体サロンの広告などは、「広告を出してお客さんが増えることは望んでいない。ただ私の想いを伝えたいので、広告スペースを利用させてほしい」と整体の先生はおっしゃってくださっています。広告の反響も大きくて「ママトリエは神」、とまで言ってくださいました。

産婦人科の広告では、院長先生が助産師さんたちが発信するためのスペースとして利用したいとおっしゃっています。

必ずしもクーポンが付いているわけではない。広告というのはいろんなスタイルがあるんだなと「ママトリエ」を発行して気付きました。



箕面市内では 100 スポット以上に配布設置していますが、公立幼稚園、私立幼稚園では金曜日にプリントを持って帰る「おたより挟み」というものがあり、そのなかに入れるスタイルをとっています。

回収に行っても、「ママトリエ」はほとんど残っていない状況です。それだけ手にとっていただいているのかなと感じております。

以前、フリーペーパーを作っていたときに、営業部長が「営業しなくても、良いフリーペーパーを作れば、置くだけでそれが営業してくる」と、言われたことを覚えています。

実際「ママトリエ」自体が営業してくれるので、メンバーが動くことはほとんどありません。ママは営業が苦手ですし、子連れでは行きにくいので、良い「ママトリエ」を作るために、この6月に思い切って大リニューアルしようと思っています。

今日はそのアイデアをいただいて帰りたいと思います。(大拍手)


上村さん


ありがとうございます。

ビジネス上手で、お金がまわっていることがすごいですね。

「ママトリエ」はオシャレですね。お母さんたちが手に取るにはこういうデザイン性も必要なのかなと思いました。


「月刊島民」と「南部再生」さんは 独特な表紙ですが、お二人から表紙へのこだわりを教えてくださいませんか？

<p>若狭さん</p>	<p>「南部再生」の表紙は、いつもこんな風なイラストなんです。 大学卒業してばかりの、作りはじめの頃、色を使おうと二色刷りにしました。 イラストを無料で描いてくれる人いないかなと探したんですが・・・ 実はこれは、妻が描いてるものなんです。</p> 
<p>上村さん</p>	<p>え、そうだったんですか！　すごいなあ、味があって・・・。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>うちの妻やったらお願いできるってことで・・・。 「ヘタウマ」じゃなく、「ヘタ」な感じですが。(笑)</p>
<p>大迫さん</p>	<p>家内制手工業ですね。(笑)</p>
<p>若狭さん</p>	<p>メンバー全員そんな感覚でやっています。</p>
<p>大迫さん</p>	<p>デザインは若狭さんがやってるんやね。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>デザインは僕なんですよ。デザイン学校を出ているわけじゃないけど、お金がないのでやるしかない。</p>
<p>上村さん</p>	<p>これが一つの顔になっていて、味がありますよね。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>「月刊島民」はカッコいいですよ。</p>
<p>上村さん</p>	<p>これは、どのようなコンセプトで作られていますか。</p>
<p>大迫さん</p>	<p>例えば、今日、みなさんにお配りした号のこの表紙は、岩本栄之助さん、佐治敬三さんですよ。その左の人は住友吉左衛門さんです。みなさん「偉い人」なんですよ。だから、いつもきちんと描かれることが多いのですが、この時はちょっと</p>


	<p>「イエーイ！」みたいな感じでひょうきんな感じにしながら、それでいて嫌な感じが出ないようにしました。</p> <p>持っていて恥ずかしくないように。</p> <p>あるいは、大阪中之島美術館のコレクションを扱ったこの号なんかは、中之島美術館の佐伯祐三などの有名な絵をモチーフにしながら、くすっと笑える感じにしています。</p>	
上村さん	ユーモアが感じられますね。	
大迫さん	<p>私たちは、デザインとイラスト関係は外注しています。</p> <p>プロのグラフィックデザイナーがやっています。</p>	
上村さん	こういうものにしてねというのは、大迫さんのアイデア？	
大迫さん	<p>そうですね。なんとなくラフを描いて渡します。一方で、「南部再生」の場合は、デザインのセオリーからは外れていることが多いですね。</p> <p>「のど」と呼ばれる 折りのスペースのところ、見開きによって違っていたりして、揃えろよと思う時もあったりするんですよ。</p>	
上村さん	プロから見ると、これは邪道な感じですか。	
大迫さん	はい。字が見つらいわ！ みたいな感じもありますが・・・。	
若狭さん	ほとばしる情熱だね。(笑)	
大迫さん	<p>でも、尼崎の地元ネタを扱ったフリーマガジンだし、あまりきれいにデザインされているより、むしろこっちのほうがいいでしょ。</p> <p>この感じでしか伝わらないものもあると思います。</p>	
若狭さん	計算され尽くされてない・・・。	

上村さん	わざと外しているという。
大迫さん	ほんまかいなあ(笑)
若狭さん	<p>ローカルメディアって、ママたちに読んでほしいとか、読者を完全に絞れるじゃないですか。ママ以外は読まなくてもいいとか。</p> <p>僕たちは読者層を想定していない。自分が読みたいと思う人が手に取ってくれたらいいと思っていて、マーケティングもそんなに考えてない。</p> <p>「南部再生」を手にする人は、全人口の5%くらいしかいない。</p> <p>みんなに読んでもらわなくてもいいけど、伝えたいことはある、みたいなの。</p> <p>ほとぼしる情熱ですね！「パッション」で作っています。(笑)</p>
大迫さん	<p>デザインをどれだけ洗練させるかということにも、さっき言った「役割」と「かたち」があると思っています。むやみやたらにカッコ良ければいいかというところでもない。洗練させすぎること、遠ざける場合もある。</p> <p>読んでほしい人、ターゲットに向けて、その役割に応じたデザインになっていることが、今日の3つの媒体に共通しているのかなと思います。</p> <p>それぞれ方向性が違うのは、雑誌の持っている役割が違うからだと思います。</p>
上村さん	<p>大迫さんのおっしゃっていた、「作ることによって何を指すのか」というところに集約されますね。</p> <p>小西さんのところはこの冊子を作ることでママたちが活躍するところにつながるんですよ。</p>
小西さん	<p>はい。仕事でカタログやパンフレットを作っていたので、「ママトリエ」の最初はうまく作れないクオリティでのストレスがあり苦しい時もありました。</p> <p>でも逆に、「これが良い」、この手作り感が良いとクライアントが言ってくださって、それがひとつの魅力で味なのかなと。</p> <p>また、枠組みをプロに頼んで、中だけ自分たちで書いたりもしていましたが、それだと反響が逆に薄かったということもありました。</p>



上村さん	<p>洗練させすぎると、届かないこともあったり。 続けていくことで、それが味になっていったりするんですね。 「ほとぼしるパッション」がやっぱり大事ということですね。</p>
大迫さん	<p>ローカルメディアの世界で有名な北九州市の「雲のうえ」というフリーペーパーがあります。 「雲のうえ」以後、「雲のうえ」以前と分けられるほど エポックメイキングな存在なのですが、その雑誌はめっちゃくちゃカッコ良いんですよ。 北九州市が発行していて、一流のカメラマンやデザイナーを使って作っているんですが、すごく味のある写真とシンプルで美しいフォントで構成。 みんな、それを真似し始めたんです。 ただ、「雲のうえ」はなぜ洗練されているかというと、“東京から人を呼びたい”という目的のために作られた。だからデザインの洗練が必要なんですね。六本木や新宿のカフェに置いても負けない。 感度の高い人に手に取ってもらって、「いいな」と思ってもらわなきゃいけないから洗練したデザインにしているのであって、むやみやたらにカッコ良くしても、「なんやねんこれ！」となる。 それならオーソドックスな写真や読みやすいデザインのほうが良いこともある。 やっぱり、「目的」ですね。「かたち」だけ真似してもうましくない。</p>
若狭さん	<p>パッションがあればいいですよ。</p> 
上村さん	<p>そして、地元愛と。</p>
大迫さん	<p>パッションね！</p>
上村さん	<p>まだまだお三方に聞きたいことはありますが、今日のメインは「千里大編集会議」です。お三人のパッションは、後半もほとぼしってくれると思います。</p>

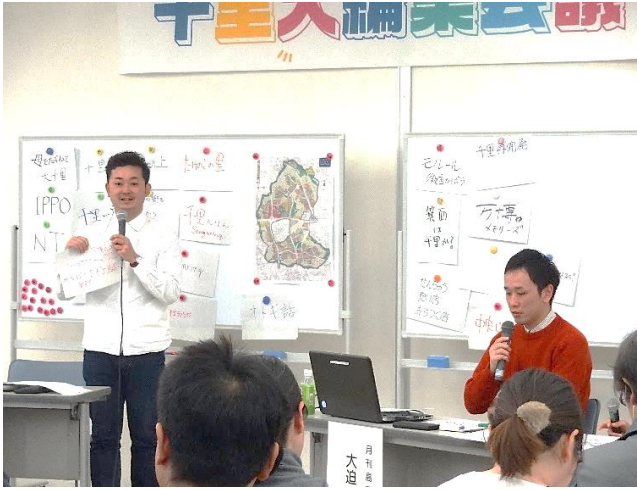
	<p>ここからは参加型編集会議ですので、みなさんと「あーだ、こーだ」の大喜利形式で進行いたします。</p> <p>5分間の休憩の後、後半も期待して参加していただきたいと思います。</p> <p>とりあえず前半は、ここまでということで、三人の皆さんに拍手をお願いいたします。（大拍手）</p>
	<p>《 休憩 》</p>
上村さん	<p>皆さん、お揃いでしょうか。</p> <p>では後半は大喜利形式で、みなさんと一緒に千里の大編集会議をしていきたいと思ひます。</p> <p>みなさん、大喜利って知っていますよね。大喜利ってしたことありますか？</p>
若狭さん	<p>ふつう、ないでしょう(笑)</p>
上村さん	<p>今、大喜利がブームでよくやっていますが、大喜利はどのようにするんですたっけ、若狭さん。</p>
若狭さん	<p>日本には、よくアイデア会議とか、アイデア出し、ブレインストーミングといひますね。</p>
大迫さん	<p>ブレストね。</p>
若狭さん	<p>私は、ジャパニーズ・トラディショナル・ブレインストーミングが、大喜利だと思ひていひます。</p> <p>今から千里の雑誌を作るにあたっての「お題」を出して、解いていくといひつの間にか雑誌ができていひみたいな風にしていひきたいと思ひます。</p> <p>「お題」は、5～6 題ほど準備していひます。</p> <p>最初はこちら。まずはやってみましよう。</p> <p>最初のお題は、「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」</p> <p>みなさん考えてくださいね。</p>
大迫さん	<p>はい！ ではご参考までに私から行ましよう。</p>
若狭さん	<p>「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」</p>
大迫さん	<p>はい！ 『千里の道も「IPPO」から』</p> <p>ここ、拍手来るトコやと思うんですけど！（笑）（拍手）</p>
若狭さん	<p>いいと思ひます。</p> <p>じゃあ、僕も考えました。</p>
大迫さん	<p>じゃあ、若狭さん。</p> <p>「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」</p>
若狭さん	<p>『母をたずねて 大千里』</p>
大迫さん	<p>なんやそれ。(笑) なんで母をたずねなあかんのですか？</p>
若狭さん	<p>グレーター千里。ママ向けの雑誌としていいんじゃないかなと。</p>
大迫さん	<p>なるほど、ママ向けなんですね。ママトリエの姉妹紙みたいな。</p>

若狭さん	みなさん、こんな感じで答えてくださると嬉しいです。
大迫さん	思いついた方から挙手してくださいね。我々も考えないといけないですね。紙の冊子をイメージしていただいて、どんなタイトルやったら読んでくれるかなと考えてね。自分でやるのはちょっとという方は、係の方に渡していただいてもいいですよ。 はい、じゃあ若狭さん。「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
若狭さん	『 NT 』（笑）
大迫さん	「 ああ 」って言っている方もおられるんですが、何ですかNTって。
若狭さん	何か、わかりますか。千里の人が、ニュータウンと書くときNTって書くでしょ。千里だけかな？ 
大迫さん	へー、NTって書くんですか。ホンマですか？
若狭さん	NT、ちょっとかっこいいでしょ。めっちゃかっこいい。
大迫さん	なんか、MJみたいな感じで。
若狭さん	なんか、シュツとしてる。
大迫さん	シュツとしてますね。 じゃあ、そこのお父さん。ありがとうございます。
若狭さん	では、「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」 どうぞ！
参加者	『 千里願(せんりがん) 』
大迫さん	おー、いいですね！ 千里の願いと書いて千里願！ 拍手をお願いします。(拍手)
若狭さん	『 千里願(せんりがん) 』 いーですねえ！
大迫さん	ホンマに大喜利みたいになってるんですが、大丈夫ですか。編集会議に寄せていったほうが、いいんじゃないですか。(笑) では、もう お一方。
参加者	ちょっとパクリですが、『 千里一空(せんりいっくう) 』
大迫さん	『 千里一空 』、四字熟語の「万里一空」じゃなくてね。 なるほど。というか、みなさん、ダジャレじゃなくてもいいですよ。

	本当の大喜利になってますから。 千里は入れなくてもいいですよ。千里らしさのイメージでね。
上村さん	他にいらっしゃいませんか？
若狭さん	では、「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『千里ッて？』
大迫さん	なるほどね。大人って、みたいな感じですね。
若狭さん	雑誌のタイトルで「？」はあまり見ないですよ。 小さい「つ」がカタカナで。
上村さん	何か話しかけるイメージですね。
若狭さん	小さい「つ」がカタカナになってるんですね。
上村さん	おしゃれ！
大迫さん	ちょっとしたアクセント、ワンポイントになっていますね。
若狭さん	なんかこう言っちゃなんですけれど、いろいろ出てるのは「凡庸」な感じ(笑)
大迫さん	でも、彼も『母をたずねて大千里』って言ってましたからね。(笑)
参加者	『丘の上』
大迫さん	おー、いいですね！
若狭さん	いいです、いいです！ジブリファンは確かに手に取る！(笑)
大迫さん	これは「雲のうえ」のパクリ？ でも、いいですね『丘の上』。千里丘陵ですからね。
参加者	最初の方のパクリになっていますが・・・。
若狭さん	行きましょう。「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	最初の方のパクリです。『千里の街も一歩から』
大迫さん	キャッチコピーですね。 タイトルの上の肩にコピーとして付けておきましょう。
若狭さん	『千里の街も一歩から』、一歩。
大迫さん	一歩が かぶったね。 はい、あちら整いました。男性が多いですね。
若狭さん	行きます。 「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『千里会議』
大迫さん	いいですね。 「宣伝会議」「広報会議」というのがありますから。
上村さん	いろいろ出てきましたね。他の方はないですか。
若狭さん	出た。行きます。「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『たけのこの里』
大迫さん、 若狭さん	いい、いい！めちやくちやいい！(笑)

上村さん	ここで可愛いのが、きましたね。
若狭さん	お菓子メーカーの方が怒ってきそう。 でも、これいいですね。歴史的なことも含まれてるし、最高。 特集にいいじゃないですか。 「千里にはたけのこの里があった！」という対談とか。
上村さん	続いてこちら。
若狭さん	つぎは、女性の方ですね。 「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『千里りん (senrinring) 』
上村さん	可愛いですねー。読み方も書いてあります。
大迫さん	こういうのですよね。
若狭さん	「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『千里台本』 「台」が付く地名と千里がつく地名がほとんどなので。
大迫さん	なるほど。「台本」ですね。
若狭さん	いいですねー！
若狭さん	いらっしゃいます。 「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『Senring 』
若狭さん	『Senring 』、ing進行形ですね。
大迫さん	出ました進行形。いいですね。
若狭さん	いらっしゃいました！
大迫さん	整いました！
若狭さん	「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『センリぐるり 』
上村さん	センリはカタカナで、ぐるりはひらがなですね。いいですね。
若狭さん	「千里に新創刊したローカルマガジン。そのタイトルは？」
参加者	『千里ラプソディ 』
大迫さん	歌謡曲みたいな感じですね。だいぶ出ましたね。
上村さん	だいぶ出揃いましたね。
若狭さん	では、次のお題にいきましょう。 次のお題はこちら！「配布3日で完売の創刊特集とは？」 さあ、この冊子、何の特集をしたら手に取ってもらえるか。 千里を特集した企画のタイトル、または企画をお考えください。
大迫さん	どなんやったら手に取るか、これは「読まないとかかん！」というものを、是非考えていただきたいですね。
上村さん	ちなみに「南部再生」の「おやつの時間」って特集、ワクワクしますよね。 こういうようなネタですよ！「スナック特集」などもありましたよね。

大迫さん	大喜利の問題点として、みんなが考えると、誰もしゃべらなくなりますね(笑) なんか音楽でも流しますか？
上村さん	千里ラブソディでも歌っていただかないといけませんね。(笑) はいみなさん！千里ならではの企画を是非ぜひお願いいたしますね。
若狭さん	はい！
上村さん	それでは、「配布3日で完売の創刊特集とは？」
若狭さん	『モノレール徹底カイボウ』 千里のモノレールファンに向けて。乗り物系はテツパン。 強いですからね。
上村さん	鉄道好きは多いですからね。(笑)
大迫さん	じゃあ、ぼくも。これ気になるのと違うかなと。
若狭さん	はい、「配布3日で完売の創刊特集とは？」
大迫さん	『箕面は千里か？』 僕もよくわかってないところがあって、箕面は千里なんですかね？
若狭さん	「違う、一緒にすな」って感じですか？(笑)
小西さん	箕面の方は入りたくない？
若狭さん	いま、会場を敵に回しましたね。(笑)
大迫さん	どこからどこまでが千里なのかが、結構重要なのかなと。 千里って明確な境目がないのが面白いのかなと。
上村さん	他に、このネタなら読みたいというものはありますか。
若狭さん	はい、「配布3日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『千里再開発』
若狭さん	そのころは？これからの再開発のことでしょうか？
大迫さん	ちょっと気になりますね。ニュータウンになってるのに、 更に、今から再開発？
参加者	そうです。ニュータウンといってるけど結局オールドタウンになってしまってるじゃないですか。高齢者人口が増えて過疎化してきてる。 それを活性化させるには再開発が必要になってくると思うんです。 さらに魅力あるまちにしていく必要があると思う。
若狭さん	はい、まとまりました。
上村さん	はい、「配布3日で完売の創刊特集とは？」
若狭さん	『万博メモリーズ』 大阪万博2025が始まる時に創刊するんですよ。 これ真面目に考えているんですよ！みなさん、千里の住民ちゃうんですか。
大迫さん	大喜利というから、つい面白ないとあかんのかと思ってしまいますよね。 全然そんなことはありませんからね。(笑)
若狭さん	でも、編集会議したら普通に出てくるネタですよ。

参加者	エキスポシティの中のフードコートでやってます。
上村さん	すでにやってる。(笑)
若狭さん	そうか、やられたなあ…。それをもっと掘り下げるんです！
上村さん	さて、他の方もいらっしやいますね。
若狭さん	「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『 せんちゅう安い店・おちつく店 』
若狭さん、 大迫さん	<p>おー。いいですね。</p> 
若狭さん	そのころは、ご自身が行きたいという？
参加者	せんちゅうは人が集まるから、安い店・落ち着く店をみんなが探してると思って。
若狭さん	ちなみに紹介するならば、どんな店がありますか。
大迫さん	帰りに行こうとしてるでしょう(笑)
参加者	ぼくは知らないんですよ。(笑)
大迫さん	安くて落ち着く店が千里中央の店の傾向を示してる感じがしません？ 逆に高い店と賑やかな店が多いということですか？
参加者	そうかもしれない。
若狭さん	「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『 千里ブランドとは？ 』
上村さん	ほー、おしゃれ系ですか。
大迫さん	千里は箕面の方から見てどう感じるんですか？
上村さん	「千里」というだけで、ひとつのブランドというイメージがあるんですけど。
大迫さん	<p>面白いですね。</p> <p>尼崎は平地なので、山というか千里の高低差が新鮮です。</p>
若狭さん	千里の最高地点はどこになるんですか？
参加者	青山台と新千里北町の外側です。
上村さん	緑地帯のところですね。
大迫さん	<p>高さとも価格もリンクしてるんでしょうかね？</p> <p>高いところにあるマンションは高いとか。</p>


上村さん	若干ありますよね。
若狭さん	ふつうに住宅情報も欲しいですよね。
上村さん	どこがいちばん高いところか、というのも面白いかも。
大迫さん	ものすごく下世話な感じですね。(笑)
若狭さん	「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『千里のお土産 スウィーツ』
大迫さん	千里のおみやげって、何があるんですか？
上村さん	千里みやげ、私知っていますって方。千里みやげってあるのかな？
参加者	帰省するとき、新大阪で「面白い恋人」「月化粧」とか。(笑)
上村さん	大阪市内のもですね。
小西さん	私は地方出身なんで、ママトリエ創刊時に箕面のおみやげ特集をやったんです。面白いものがあって、ポン酢だったんですけど、それを持って帰省すると親戚中が病みつきになりました。
大迫さん	箕面はポン酢があるんですね。尼崎にも有名なポン酢があります。千里にもきっとそんな掘り出し物があるかもしれない。
若狭さん	実は、雑誌を作ることでそんなことを、発掘することもできるんです。メイドイン尼崎の特集をしてポン酢やソースを発掘しました。業者しか知らなかったものも結構あるかもしれない。
大迫さん	B to B (企業間取引の形態)でね。
若狭さん	そうそう、工場の端っこでこっそり売ってたりしてね。
上村さん	地元企業の応援みたいなことにもつながりますよね。
若狭さん	はい、「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『オトギ話』 最近、子どもが増えてきたことと、大正 10 年くらいに「赤い鳥」というものがあって北原白秋とかが童謡の歌詞を作っていて、それが今童謡で歌われている。 千里のおとぎ話を作って 100 年後くらいに見られたりして。
若狭さん	千里一夜物語みたいですね。(笑)
大迫さん	今、ちょっと上手いこと言ったと思ってるでしょ。(爆笑) これは、連載コンテンツでいきたいですね。
若狭さん	「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『中央じゃないほう』
上村さん	千里中央じゃないほうの千里。
若狭さん	なるほど。
大迫さん	中央じゃないほうの千里の気持ちをね。 今、気付きましたけど「千里中央」って波紋を呼ぶ地名ですよ。(爆笑)
若狭さん	なかなかの中華思想ですね。
大迫さん	ここが千里の中央です、と言うてるわけですからね。

若狭さん	なぜ我々は周辺なんだ、ということですよ。 でも、面白いのは周辺にありますから。
大迫さん	非常に千里っぽい特集ですよ。
若狭さん	「中空構造」と 河合隼雄先生も言うてます。 では、「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『 せんちゅうのこれから。どうなるの？どうしたい？ 』
若狭さん	いいですね。
大迫さん	切実ですよ。本当に
若狭さん	新しい電車が通るとかね。
小西さん	「 どうしたい 」はまちづくりをするうえで聞いてほしいところですよ。
上村さん	そうですね！ 自分から主体となってね。
大迫さん	市長も新しいコミュニティとおっしゃってましたから。 これ、いいですね。
上村さん	こちらに面白いのがありました。
若狭さん	じゃあ行きます。「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『 家族で 2000 円、3000 円で満足できる ごはんや特集 』
若狭さん	いいですね！ せんちゅう せんべろ特集ですね！（笑）
大迫さん	2000～3000 円という微妙なラインですよ。 5000 円でお釣りがくるということですよ、これ。 これはやっぱり、お母さんとかも知りたい感じのところですよ。
小西さん	すごく知りたい。（笑）
若狭さん	いいですね。千里と 1000 円 2000 円との「千」がかかっている。
上村さん	そこがかかっている。（笑）
若狭さん	これは連載企画っぽいですね。
大迫さん	「 千里 」は、いじりやすいですね。
若狭さん	千里という言葉は、いじりやすいですね！ ちなみに千里は何 km？
大迫さん	一里が 4 キロだから 4000km。
若狭さん	はい、次行きましょう。「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『 千里出身の芸能人は誰か？ 』
若狭さん	いいですね。巻頭グラビアは、大江千里以外の何物でもない。（爆笑）
大迫さん	え、大江千里は千里出身ですか？
上村さん	違いますよね。（笑）
大迫さん	山咲千里は、違うんですか？ え、もっと違う？
上村さん	違います。（笑）
若狭さん	さっきそこでパネルを見ていたら、セルシーに来た芸能人が書いてあったんですが、多いんですね。 ずらーと並んでた。

大迫さん	あれ、いいですねえ！
若狭さん	きゃりーぱみゅぱみゅ、来てたんですね。 あと、初音ミクが来たと書いてあったんですが、初音ミク来るんですか？(笑)
大迫さん	美川憲一も来てましたね。 僕もちょっと考えました。
若狭さん	「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
大迫さん	これ、完売するかな。『千里から千里』 ホンマに千里離れたところに行ってみる。
上村さん	いいですね。
大迫さん	どこまでなんかと、4000km ですからね、どれくらいですか？ アルゼンチンくらいですか？ わかりませんが。(笑)
若狭さん	じゃあ行きます。「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	しつこいですけど『台対決』
大迫さん	「台」、好きですね！
参加者	違いがわからないので、特徴があるんじゃないかなと思って。
若狭さん	「青山台」対「藤白台」、とか？ どう、対決させるんですか？
大迫さん	まずは高さが、重要なポイントになってきそうですが。
若狭さん	でも、桃山台の知名度には負けますからね。 地域差を笑うことも、ローカルネタですね。
大迫さん	千里ニュータウンとひとくりにされがちですが、「台」ごとに見ていくと個性があるかもしれません。
上村さん	ちなみに、豊中市側は「丘」なんですよ。「台」ではなく。
大迫さん	じゃあ、東西問題なんだ。 えらいことになっているんですね。
若狭さん	じゃあ「丘の上」というタイトル自体が豊中寄り。
大迫さん	吹田市民から反感を買う訳ですね。
若狭さん	じゃあ次行きましょうか。「配布 3 日で完売の創刊特集とは？」
参加者	『千里のおもしろサークル』 集まって何かをやってる人がいたら知りたいんです。私が知りたいことです。
若狭さん	なるほど。あなたたち集まって何をやってるんですか、という。
大迫さん	そこの掲示板にもいろんなサークルがありますね。
上村さん	コラボには、サークルが多いんですよ。
参加者	突撃するみたいな。
大迫さん	いいですね。 「突撃！隣の晩ごはん」みたいに、しゃもじを持って。(笑)
若狭さん	なかには、ミステリーサークル的なものもあるかも。

若狭さん	では、次のお題はこちらです。 「この雑誌でしか読めない超地元連載陣とは？」 誰が書くのが面白いかという。
大迫さん	地元の有名人ね。
若狭さん	ちなみに「南部再生」では、神主さんに連載してもらったりとか、博物館の学芸員の人にも書いてもらっています。
大迫さん	連載には特色が出ますからね。
若狭さん	誰に書いてもらうか。〇〇さんで出してもらってもいいです。
大迫さん	連載陣あるいは連載企画ですね。 地元を知る人がたくさん出てくるといいですよ。
若狭さん	そうですね。 はい、では「この雑誌でしか読めない超地元連載陣とは？」どうぞ！
上村さん	はい、『片寄先生』ですね。
若狭さん	帰りましたね。
大迫さん	先生っ！(爆笑)
上村さん	帰っちゃった！(笑) 片寄先生は、若狭さんの恩師ですよ。 どういう人かちょっと教えてもらってもいいですか。
若狭さん	大阪府でもともと技師をされていて、千里ニュータウンの開発に仕事として携わっていた方で、大学の先生です。 今は大学を退任されて、時間を持て余している。(笑)
上村さん	ほかにも面白い人をいっぱい発掘してください。
参加者	『ココリコ』地元出身だから。
上村さん	ココリコは、千里ニュータウン出身ではないんですね。豊中出身でゆかりのあった方ですね。
若狭さん	難しいのかな？ はい。「この雑誌でしか読めない超地元連載陣とは？」
参加者	『横山ノック』昔は住んでいたんですけど。
若狭さん	元大阪府知事の横山ノックさん。何を書いてもらいますか？
参加者	内容はまかせる。(笑)
若狭さん	千里にフォーカスしたことを書いてくれる人がいいですよ。
大迫さん	千里に詳しいというか、千里らしさが出るような。 大江千里とかは、なしですよ。
上村さん	意外と難しいのかもしれないですね。
若狭さん	はい。「この雑誌でしか読めない超地元連載陣とは？」
参加者	『ニュータウン博士 おっくん』
若狭さん	奥居さんはニュータウン博士ですからね。
大迫さん	これはもう、テッパンですね。

若狭さん	『世界のニュータウンから』という連載はどうですかね。 世界のニュータウンと比べて、千里がいちばんすごいということを、ひたすら言うみたいなの。
大迫さん	石丸謙二郎のナレーションみたいな感じで。
上村さん	ご本人に聞いてみましょう。
奥居さん	がんばります(笑)
大迫さん	世界のニュータウンから見て千里はどんな個性があるんでしょう？
奥居さん	いろんなところに一番行きやすい。アクセスが良くて環境も良い。
大迫さん	他のニュータウンは交通の便が悪いんですか。
奥居さん	千里ほどよくはない。 僕は、千里に住んでるから、あちこちのニュータウンに行ける。
若狭さん	奥居さんのようにキャラが立った人が出てくると面白いですよ。
大迫さん	交通の便がいいのはたしかにそうかもしれないですね。
若狭さん	では、次のお題。 「誰もが手に取る画期的な配布方法とは？」
大迫さん	先ほど小西さんもおっしゃってましたが、どこで配るかはかなり重要ですね。 知的な配布方法ね。 ちなみに「南部再生」はどこに置いているんですか。
若狭さん	「南部再生」は尼崎市内の尼崎信用金庫と郵便局、あとは阪神電車の駅、公共施設に1万部配布しています。
大迫さん	阪急電車には置いていないですね？
若狭さん	それは北部ですからね！
大迫さん	こんなこと言いながら、この人は武庫之荘に住んでいますからね(笑)
若狭さん	はい、尼崎のビバリーヒルズです(笑)
大迫さん	やかましいわ！(笑)
若狭さん	大喜利になっていますが、難しいので、考えながら話をしますね。 「ママトリエ」の配布箇所は何箇所くらいですか？
小西さん	数えたことはありませんが、何百箇所ですね。 全図書館、幼稚園、保育園なども、ほぼ配っています。 でも、配布をどうするかというのが、いちばん悩みました。 最初は一軒ずつ回っていましたが、フリーペーパーを作ることに関わる人を増やせばどんどん広がっていくし、持って帰るので今は配布員さんはいないです。 出来るだけ、いっぱいの方に関わっていただいて。
若狭さん	配布員は大きいですね。 常にカバンに忍ばせて入れてるんですよ。
小西さん	そうです、そうです。いつもカバンに入れています。
大迫さん	あめちゃん、みたいな感じですね！

<p>小西さん</p>	<p>ママに会うと10部渡して、「誰かに渡して」と拡散してもらおう。 置いてもありますけれど。</p> 
<p>若狭さん</p>	<p>でも、なんかちょっと怖いですね(爆笑)</p>
<p>大迫さん</p>	<p>怖い?(笑) どこにあるというよりは、人づてで広がる。いいですね。 千里ニュータウン民が、カバンにしよばせるかたちになればいい。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>専用のメッセンジャーバッグで。それ、面白いですね!</p>
<p>大迫さん</p>	<p>みんな持ってるから、逆に流通しないみたいなの。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>行政やいろんな機関が作るんですが、作った段階で満足しちゃってよくよく調べたら倉庫の裏にむちゃくちゃ積まれてたりする。</p>
<p>上村さん</p>	<p>んー、ありますよねえ。そういうことね。</p>
<p>大迫さん</p>	<p>あえて、こういう作戦はどうでしょう。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>では、「誰もが手に取る画期的な配布方法とは?」</p>
<p>大迫さん</p>	<p>『千里限定』 千里から一步も出さない。他のエリアのやつには見せない。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>いいですね。桃山台辺りで読んでても御堂筋線でパッと隠す。(爆笑) 千里の人しか読めないようにして、何を書いてあるんやろうと。</p>
<p>大迫さん</p>	<p>すぐ隠してくださいよ! 駅も桃山台がギリです。 そこから先には配りません。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>読んでいる人が、みんな読んでることを隠す、という焦らす作戦。(爆笑)</p>
<p>大迫さん</p>	<p>「メルカリ」で売った人は、袋叩きにあうみたいなの。(大爆笑)</p>
<p>若狭さん</p>	<p>でも、ローカルティは大切ですね。 東京のフリーペーパーの所が置かしてくれと言われても、頑なに断ってました。 でも、最近さすがにちょっと褒められたいから置いたりしてます。(爆笑)</p>
<p>大迫さん</p>	<p>「月刊島民」も東京で配ってるんですけどね。 もらってどうするんでしょうね。</p>
<p>小西さん</p>	<p>うちも北摂限定ですけど、川西でも読みたいというママがいました。 エリアを限ると読みたいくなるみたいですね。</p>
<p>大迫さん</p>	<p>あ、小学生が手を挙げましたよ。</p>
<p>若狭さん</p>	<p>では行きます。「誰もが手に取る画期的な配布方法とは?」</p>

参加者	『地域の小学校』
若狭さん	おお、強いなそれな。
上村さん	小学校は拡散力がありますからね。
若狭さん	小学校で配って、持ち帰ったら食卓に置いておくね。 どうですか！うちの現役。すごいでしょ！ これで「南部再生」も40年は安泰やな！（爆笑）
大迫さん	団地やマンションが多いから、配布というより回覧板で回してしまうのはどうでしょう。見たらハンコを押していく、みたいな。ボロボロになったりしてね。
小西さん	自治会に入っていない人が多いので、フリーペーパーが「回覧板機能」を持つといいですね。
大迫さん	こんなに真面目に取ってくれると思てへんかった。（笑）
参加者	いいですか？
若狭さん	はい、「誰もが手に取る画期的な配布方法とは？」
参加者	『ポスティング』
大迫さん	発音がいいですね！（爆笑）
若狭さん	これ、画期的ですか？
大迫さん	これ、ちょっと面白いなと思うのは、団地が多いからポスティングする人にキャラを持たせると面白いかなと思って。一軒ずつ入れていくわけでしょ。
若狭さん	なるほど。偶数の号室しか入れないとか。 奇数の人は「うちに入らへんなあ」って。なんか、選ばれた感がありますよね。
若狭さん	「誰もが手に取る画期的な配布方法とは？」
参加者	『定食屋さんのトレイに乗せる』
若狭さん	なるほど、なるほど。「マクドナルド方式」ですね。 マックのトレイは、広告になっていますからね！
大迫さん	千里は、定食屋が多いんですかね？
上村さん	千里中央は、そこそこ飲食が多いですからね。
若狭さん	何かと抱き合わせるとというのが、ポイントかもしれませんね。
参加者	紙に書けなかったんですが、『配る人を何人が設定して、その人がどこに出没するかわからない状態にして、ツイッター等で目撃情報を回して、どうやったらゲットできるかというゲーム感覚』にするのはどうでしょう。
上村さん	「ポケモンGO」みたいな。
若狭さん	いいですね。面白いですね。 つまり、誰でも手に取れるものなので、それをどうやってプレミアム感を出していくか、というのが面白いですね。 じゃあ、続いてのお題。 「千里東西闘争勃発！〇〇の豊中 〇〇の吹田」
大迫さん	なるほど。これは、煽ってますね！

若狭さん	先ほど司会の堺さんが、「吹田と豊中が協働で」と言っていたけど、その違いがよくわからない。
大迫さん	市長もおっしゃっていましたね。
若狭さん	でも、吹田と豊中の違いがよく分からない。 先ほどで言えば、「台」の吹田、「丘」の豊中みたいな感じですかね。
大迫さん	これはうまく出せれば、すごく深い内容になりそうですね。
若狭さん	そうなんですよ！「人気のセ、実力のパ」みたいな言い方。(笑)
大迫さん	古いねん、いちいち！(大爆笑) こういうのは地元の方にしか、わからない感覚ですね。
小西さん	さっき、市長さんがおっしゃってましたが、豊中は待機児童がゼロになったという話でしたが、吹田市はどうなんでしょう？
若狭さん	んー、「待機の吹田？」(爆笑)
大迫さん	でも、こういうことを一緒にやっぺいこうということが、堺さんの部署になるわけですか？
堺さん	吹田市と豊中市にまたがる千里ニュータウンを、お互いに連絡を取り合っぺ、情報共有を密にやっぺいこうというのが、吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議です。
大迫さん	なるほど。
小西さん	同じ市民サービスでも、お隣では違っぺいかもしれないんですね。
若狭さん	そうですね！
大迫さん	でも、違いがわかるから政策に反映できたりする可能性がある。 いいかもしれませんね。
上村さん	えらい真面目な感じですね。(笑)
若狭さん	当然ですよ！真面目な話ですよ！(笑)
上村さん	スママセン、スママセン。そうでした。(爆笑)
大迫さん	そうですね、大編集会議ですよ！(笑) でも、吹田と豊中のプロジェクトチームに、“堺”さんがいるというのも、じわじわ来てるんですよ。気になって！(大爆笑)
若狭さん	うん、堺市ね！ どうなんでしょうね、豊中と吹田。
大迫さん	定点観測みたいに同じ指標で比べると、全然違っぺいとなるとそれはそれで面白いかもしれないなと思うんですが。 この地図の、右側が吹田、左側が豊中、ここからが箕面なんですね。
若狭さん	千里はみどりに囲まれてるんですよ、完全に！ こんなエリアってないじゃないですか！まるで自治区みたいなもんでしょ。
大迫さん	しかも、このマップには空白地帯がある！なんですかこれ？
若狭さん	上新田のことを考えるといつも胸が熱くなるんですよ！(大爆笑)

大迫さん	ここはなんなんですか。すごいなあ。
若狭さん	とりあえず、休戦状態なんですよ、どっちにするかね。(笑) みなさんがこう笑うような、こういうのって「地元あるある」だと思う。 「最近、上新田めっちゃマンション建ってきたよね」なんていうのを、ちゃんとメディアで新しい人に伝えないと、ただ薄気味悪いだけですやん。(大爆笑) なぜかを伝えていかんとあきませんね！
上村さん	色を塗ってほしいですよ。
大迫さん	謎の上新田。
上村さん	なんか、ドキドキするのが書いていますね。(笑)
若狭さん	『金持ち吹田 貧乏豊中』(爆笑)
大迫さん	金持ち父さん、貧乏父さん、みたいになってますけど。 これ、どうゆうことですか？(爆笑) 深く掘り下げたらダメ？
若狭さん	ヒリヒリする展開になってきました。(大爆笑)
大迫さん	それがどういうところに表れるのか。 気になるところです。
若狭さん	ファッションの違いや乗ってる車の違いもあるかも。 実は、「南部再生」でも、「武庫川の向こう側」の特集をやったんです。 尼崎の武庫川を挟んで、向こう側は西宮なんです。 西宮と尼崎を比べて、なんとか勝てないかなと河川敷対決した。 やってるスポーツの数とかで比べて勝った負けたをやって、最終的に飼い犬に雑種が多いことで尼崎が勝利という展開でした。
小西さん	スピッツの売り上げは箕面がいちばん。
若狭さん	ちょいちょい箕面を入れてきますね。(爆笑)
大迫さん	それでちょいちょい好感度を下げていってる！(爆笑)
若狭さん	次のお題いきます。「第三勢力 箕面は千里の何なのか」
小西さん	新駅ができれば箕面の中心が変わると言われています。 みなさんの意識がどうなのかなと。
若狭さん	千里の人たちは箕面のことをどう思ってるんですか？ シュツとしてると、思ってるんですかね。 僕たちが、西宮に思う想いと近いんじゃないかな。
大迫さん	千里って、ここからここまでが千里という明確な境界はありませんよね。 でも何となく、ここからここまでが千里というのも共有されてる。
小西さん	新駅ができれば箕面も千里の一部になるような。
若狭さん	これは、千里の研究家の奥居さんに解説をお願いします。 箕面は千里の何なんでしょう？
奥居	箕面は千里の、んー、『活断層』とかどうですか。(笑) 千里は丘で、箕面は下がってるんです。171号線沿いに谷になっている。

若狭さん	<p>地形のダイナミックさがあるのも、このあたりの面白さ。 尼崎は平坦だからそういうのがないんですよ。</p>
大迫さん	<p>千里丘陵は古いし、かなり掘り下げられますよね。</p>
若狭さん	<p>「第三勢力 箕面は千里の何なのか」</p>
参加者	<p>『副都心』</p>
若狭さん	<p>あくまでも、千里中央が都心なんですね。</p>
大迫さん	<p>ということは、北急が副都心線になるんですね。</p>
上村さん	<p>はい、ありがとうございます。 まだまだネタが尽きない感じの「大編集会議」。 会場みなさんにアイデアを出していただいて盛り上がりました。 こんなかたちで、千里の情報誌を盛り上げていけたらと思っています。 今後の展開はちょっと置いておいて、お三方に感想や千里への応援メッセージを いただけたらと思います。</p>
小西さん	<p>本日はありがとうございました。 地域密着情報紙を作っていると言いながら箕面からスタートして今は北摂5市に配 布するようになって、ちょうど原点に戻る時期だったので今日参加してみて地元愛 が何よりのネタになりますし、何よりもいい情報誌を作るパワーになると感じまし た。もっと地域のママさんたちを巻き込んでいかないと、改めて思いました。 ありがとうございました。(大拍手)</p> <div data-bbox="692 1146 1377 1657" data-label="Image"> </div>
大迫さん	<p>今日はありがとうございました。 急に来て色々なこと言ってすみませんでした、楽しかったです。 尼崎は平らなところなので、そういう街に住んでいる人間から見ると、千里は丘陵 地帯になっていることや、デジタルなきちつとした境目がないのは、逆に面白いかな と思います。 どこからどこまでが千里なのかが、人によって違うのが非常に面白い。 でもみんな千里に対しての思いが重なっているところもある。</p>

地元の人にしかわからない、その感覚に軸を通すような雑誌ができればきっと人気になるんじゃないかなと思います。

機会があれば関わってみたいと思うぐらいです。期待してお待ちしております。
(大拍手)



若狭さん

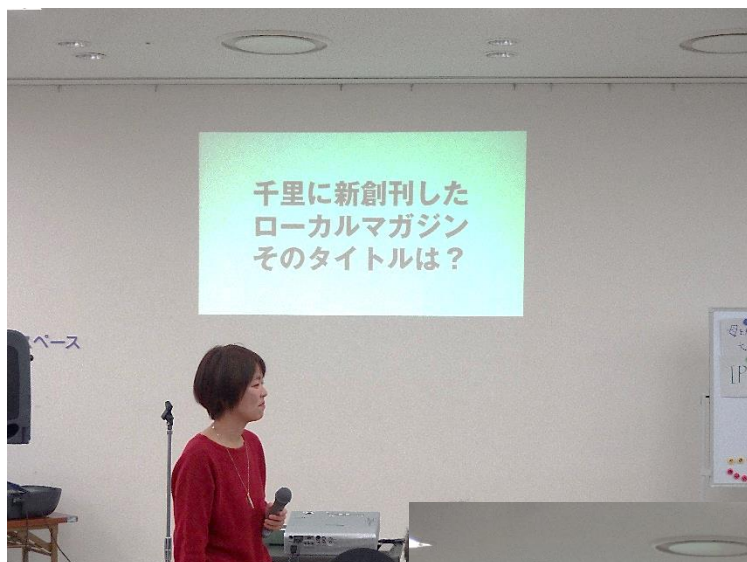
今日はお邪魔しました。
雑誌を作るのは楽しいけど、作ることが目的じゃなくて、作ることを通じていろんな人と出会ったり、まちの知らなかったことを知って、自分の暮らしがちょっとだけ豊かになる。そんな感覚だと思うんです。
いろいろある「千里あるある」を自分で楽しむ、面白がるのがこれから生まれていくと、良いまちになるんやろなと思いました。
これからがんばってください。
創刊を楽しみにしています！(大拍手)

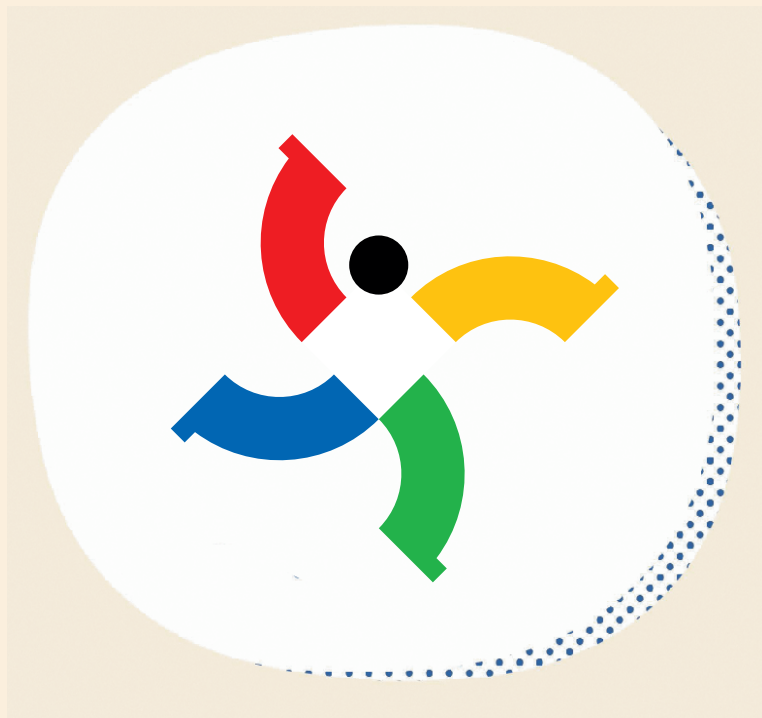


上村さん

ありがとうございました。
とても楽しいエピソードも生まれましたし、お三方からいっぱいヒントをいただけたと思います。実際、情報誌に関わっている方も持ち帰って、自分のまちで紙面作りに生かしてほしいと思います。

	<p>千里でもこういう情報発信を、みなさんとしていけたらと思っています。</p> <p>「 パッション 」があれば何でも出来ると思うので、みなさんパッションを持ち続けていきましょう。</p> <p>みなさん、今日はありがとうございました。(大拍手)</p>
司会	<p>上村さん、登壇者のみなさま、ありがとうございました。</p> <p>それではお時間となりましたので、これで終了とさせていただきます。</p> <p>登壇者のみなさまに、今一度大きな拍手をお願いいたします！(大拍手)</p>





千里文化センターフォーラム

まちを楽しむ! 千里大編集会議

主催 豊中市 市民協働部 千里地域連携センター／吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議